



西中だより

第7号 令和5年6月2日(金)

学校教育目標 「知を磨き、豊かな心と たくましい体をもった生徒の育成」

発行：校長 寺田 是

地域の方から嬉しいお話がありました

5月末の午前中に地域の方から、嬉しいお電話をいただきました。

電話いただいた方ご自身が言うには、「年齢が年齢なので、だんだん、重いモノを持ちたりするのが厳しくなっていて…」とのことでしたので、ある程度、お年を召した方だと思いますが、「西中の生徒が思い遣りのある行動をさりげなくしてくれてとても嬉しかったので、一言、校長先生にお話をしたくて…」と言って、次のような話をしてくれました。

A 朝、登校する際に、ゴミ出しを手伝ってくれる女子生徒

この方が、ゴミの回収日の朝、ゴミがたくさん詰まったゴミ袋を持って集積場所に向かう途中、たまたま通りがかった西中の女子生徒が、駆け寄り、「持ちましょうか?」と言って、ゴミ袋を持って、代わりに運んでくれた。手伝ってくれたことも嬉しかったし、そのさりげない優しさが本当に嬉しかった。

B 朝、重い瓦礫（がれき）を運ぶ際に手伝ってくれた男子生徒

(Aとは別の日の出来事です) この方とそのご主人さんが、月1回の瓦礫（がれき）回収の日の朝に、重い瓦礫を2人で運んでいました。瓦礫の回収場所は坂の上なので、お年を召したご夫婦にとっては、とても手間のかかる作業だったそうです。すると、登校途中に、この様子を見た体格の良い西中の男子生徒が「おばさん、そこへ、(持っている瓦礫を)置いて」と声をかけてくれて、そのまま、瓦礫を運んでくれた。とてもありがたく主人とともに感謝で一杯の気持ちになった。

A、Bどちらのケースでも、この方は、手伝ってくれた生徒に名前を教えてくださいと話したのですが、2人とも、「そんな大したことをしたのではないから」というような感じで名前も言わず立ち去ったそうです。「その態度がさりげなく、さわやかで、思い出すたびに、心があたたかくなる」と話していました。

また、上に紹介した2つのエピソード以外にも、「登下校の際に、西中の生徒の多くが、さわやかな挨拶をしてくれるので、元気をもらっている」という話もしてくれました。

この方は、地域の愛育会の活動をしているとのこと、仲間の皆さんにも、「私たちの方からも、生徒に積極的に声かけをしましょう」と呼び掛けてくださっているそうです。こうした、地域の方と本校の生徒の日常的な交流が、今回のような嬉しい出来事につながったのではないかと思います。また、ご家庭での日頃からの教育の力も大きいと感じています。

本校では、「誇れる西中」を合い言葉に「あいさつ・清掃・時間」に全校で取り組んでいますし、甲府市全体(市内36小中学校)で、「思い遣り心の育成」に力を入れていますので、本当に嬉しい限りです。こうやって情報をいただけること自体もありがたく、「地域の方に西中学校は支えられているなあ」と実感しています。

学校ホームページもご覧ください

- 右の記事は、本校の学校ホームページの「西中日記」に掲載した記事です(5.19)。
- タイトルは「校地の片隅の二宮金次郎像」というものです。内容は、この金次郎像は、本校の創立間もない昭和14年に地域の有志によって建てられたこと、その背景には、「西中で立派な生徒を育ててほしい」という願いが込められていること、そして、昔も今も、西中学校は地域の方の思いに支えられていることなどが書かれています。
- この記事以外にも、日々の様子や感じたことなどを「西中日記」として掲載しています。これまでに掲載した記事の内容は、部活動朝練習、中間テスト前の取組、生徒総会、英語科の授業など様々です。日常の西中の様子を知っていただく機会になればと思います。これ以外にも「学校からのお知らせ」や「学校だより」も掲載していますので、ぜひご覧ください。
- インターネットで「甲府市立西中学校」で検索するとヒットします。

西中日記

校地の片隅の二宮金次郎像

校地の隅に、二宮金次郎像があります。

台座には(風化が進み完全には読み取れないのですが)、「開校2周年記念 昭和14年4月 甲府市立男子高等学校後援会」と刻まれているようです。



本校は甲府市立男子高等学校を前身として昭和21年に開校した市内で最も古い歴史を持つ中学校ですが、この二宮金次郎像は、昭和14年の設置以来80年あまり、この地に住む子供たち(甲府男子高等小中学生及び甲府市立西中学生)を見守り、送り出してきたこととなります。

二宮金次郎(尊徳)は江戸時代後期に生まれました。災害で没落した実家を再開した院を買われ、災害と飢きんで荒廃した北関東の農村の復興を任せられ、10年かけて成功に導きました。その後、生涯で数百の村を立て直しに関わったと言われています。明治期になると、「修身」の教科書で「貧しい生活の中でも、一生懸命勉強し、家庭の仕事を手伝い、より良い生活をめざす」模範的な少年として取り上げられるようになりました。そして、大正期から昭和初期には、全国各地で、地域の有志が、小学校に勤労・勤労のシンボルとして(そういう人になってほしい、学校でそういう人を育ててほしいという願いを持って)設置するという一大ムーブメントが起きたと言われています。

本校の二宮金次郎像も、当時の地域の方々の学校に寄せる熱い思いや期待を背負って、この場所に設置されたのだと思います。

西中学校は昔も今も地域に支えられているのだなあと思えます